

塩谷古墳群 (曾根)



丹波地区の中央部の小高い丘の上に築かれた12基の古墳から成り立つ古墳群。ここから出土した2体の巫女埴輪は府の文化財に指定されています。

また、道の駅「京丹波 味夢の里」に隣接しており、道の駅から歩いて行ける遊歩道が整備されています。

梅田春日神社 (水原)



猿田彦社

文永年中(1264~1275)に亀山院により大和国三笠山から勧請したと伝えられる本殿は、境内社猿田彦社本殿とともに、昭和58年に府の文化財に登録されました。猿田彦社は、「水原の庚申さん」として親しまれています。

能満神社 (上野)



鎌倉時代に創建されてから三度の修理が行われ、現在の本殿は明和4年(1767)に建立されました。本殿の造りは極めて彫刻が多く、明るくてにぎやかなものとなっており、昭和58年に本殿が府の文化財に登録、平成12年には境内一帯を府文化財環境保全地区に指定されています。

阿上三所神社 (坂原)



阿上三所神社は和知地区内に4社(坂原、本庄、下栗野、細谷)あり、本庄阿上社を惣社として、坂原には観応元年(1350)に勧請されました。本殿は、柿葺きの三間社流造りで、装飾細部や妻飾りが繊細で現在も良い状態で保存されています。平成17年には、本殿が府文化財に指定、拝殿が府文化財に登録されました。

無動寺 (栗野)



記録が失われているため詳細は不明ですが、建築年代は室町時代後期と伝えられています。観音堂は、鉄板葺きの入母屋造りで、平成20年に府の文化財に登録されました。ほかにも、丹波地方に残る最大級の平安彫刻として貴重な木造千手観音立像(像の高さ279.2cm)が堂内にあり、府の文化財に指定されています。

明隆寺観音堂 (下栗野)



室町時代後期の建立と見られ、堂宇は茅葺き(鉄板仮葺き)の寄棟造りで、年代のわかっている村堂(特定の宗派に属さず、僧侶が常住しない堂)としては全国的に見ても最も古いものの一つであり、平成7年に国の重要文化財に指定されました。

質美八幡宮 (質美)



社伝によると、天曆年間(947~957)に社殿が建立されたと伝えられています。五間社、切妻造りの建物で、兵火などにより幾度か焼失していることから、現在の本殿は寛政8年(1796)に再建されたといわれています。平成5年に本殿と産子集会所が府の文化財に登録されるとともに、府文化財環境保全地区にも指定されました。

歴史を伝える文化財



町の歴史や風土、文化を知ることができる「文化財」。当時の暮らしや時代背景を後世に伝える、美術工芸品、史跡、建造物など、価値あるものが、町内各所に数多く現存しています。

大福光寺 (下山)



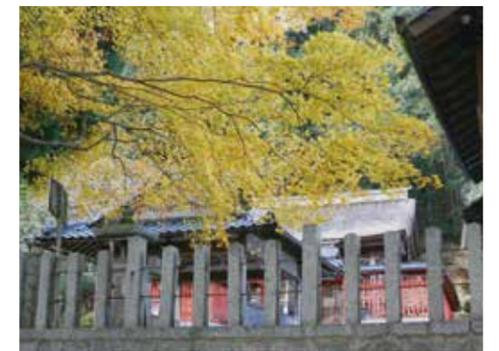
寺伝によると、延暦年間(782~806)に建立し、その後、足利尊氏が現在の地に移したと伝えられています。本尊に毘沙門天が祀られていることから「蔵の毘沙門さん」として親しまれており、明治37年に本堂と多宝塔が国の重要文化財に指定されました。ほかにも、国の重要文化財である方丈記写本、玉篇をはじめ、府や町指定文化財を数多く所蔵しています。

渡邊家住宅 (下山)



建築年代は定かではありませんが、蔵区にある享保10年(1725)の祈祷札からこの頃に建てられたものより古いとされ、16世紀に遡るといわれています。茅葺き、入母屋造り、平入りの民家で、京都府北部では最古に属し、昭和50年に国の重要文化財に指定されました。

九手神社 (豊田)



長元2年(1029)、藤原定氏が京都の松尾大社から勧請し、創建したと伝えられています。三間社流造り、桧皮葺きの本殿は、明応7年(1498)に再建、幾度の補修を経て、昭和9年に解体修理が行われて創建当時の姿となりました。本殿は大正10年に国の重要文化財に指定され、昭和61年にはさらに棟札2枚が追加指定されました。